リスク行動における動機システム特性の影響と性差

○栗田聡子¹・アニー・ラング²(非会員)
(¹大阪経済大学・²インディアナ大学ブルーミントン校)
キーワード: 動機システム特性、リスク行動、性差

Gender Differences in Motivational Activation Systems on Risky Behaviors
Satoko KURITA¹ and Annie LANG²
(¹Osaka University of Economics, ²Indiana University, Bloomington)
Key words: Trait level of motivational activation, Risky behaviors, Gender differences

目 的

人の動機活性化システムは接近・回避動機システムの活性化レベルにより個人差があり、その相対的比較は主に質問紙によって行われてきた。A. Lang ら (e.g.2011) は、二元動機システム理論を基盤に新たな測定法 Motivational Activation Measure (MAM)を作成した。MAM では被験者に International Affective Picture System(P.J. Lang et al., 1997) から選択した画像を PC で提示し、各画像に対してどのように感じたか (Arousal, Positivity, Negativity) 質問、その結果から個人の ASA (接近動機システム活性化の指標) と DSA (回避動機システム活性化の指標) を算出する。MAM の正当性は、薬物使用などのリスク行動や情報処理認知、感情的反応との関連性において証明されてきた。この研究では、動機活性化特性のリスク行動などにおける影響に関して性差があるか否か、あれば男女間でどのような差が見られるかについて調べた。

方 法

参加者: アメリカ中西部大学生 505 名 (男性 271 名、女性 234 名; 平均年齢 21 歳; 白人 79%、アジア人 11%、黒人 5%)

動機システム活性化特性: miniMAM (Lang et al., 2011)で測定。算出された個人の接近動機特性 (ASA) と回避動機特性 (DSA) をそれぞれ低 vs.高グループに分け、ASA×DSA で 4 つのグループ (Table 1 を参照) を被験者間要因とした。

従属変数: 1)刺激迫及性: BSSS-4 & SS2(Stephenson et al., 2003)を用いて測定、2)リスク行動: 飲酒、薬物、喫煙経験

手続き: 被験者は: PC を用いて 1) miniMAM 測定、2) 刺激迫及性、3)リスク行動についての質問、の順に従事した。

結 果

動機活性化の特性 1) 予測通り、ASA は男性グループが女性グループよりも有意に高く (男性: $M=2.82$, $S.D.=1.35$; 女性: $M=1.95$, $S.D.=1.40$)、DSA は女性グループのほうが男性よりも高かった (女性: $M=4.40$, $S.D.=1.15$; 男性: $M=3.78$, $S.D.=1.22$)。2) ASA、DSA は男女グループともに分布の型は正規分布であり、DSA の 歪度は負の傾向があった。3) 動機システム特性における各グループの頻度は以下の通り。

			頻度 (%)		
動 機 特 性 グ ル ー プ	ASA (接近動機)	DSA (回避動機)	男性	女性	Total
Risk Takers	高	低	94(34.7%)	26(11.1%)	120(23.8%)
Risk Avoiders	低	高	26 (9.6%)	86(36.8%)	112(22.2%)
Coactives	高	高	80 (29.5%)	58 (24.8%)	138(27.3%)
Inactive	低	低	71 (26.2%)	64 (27.3%)	135(26.7%)
		合計	271(100%)	234 (100%)	505 (100%)

Table 1. 動機システム特性における 4 グループと男女別頻度
予測通り、最多の男性被験者が属するグループは Risk Takers であり、Risk Avoiders は一番少なかった。女性被験者からは全く逆の結果が見られた。

刺激迫及性とリスク行動との関連性

miniMAM で測定された個人の動機システム特性と刺激迫及性・リスク行動との関連性において男女グループの比較をした結果 (Table 2)、共通点と同時に相違点が見られた。

共通点: 男女グループとも、正の相関が ASA と刺激迫及性・リスク行動との間に見られ、DSA はそれら変数と弱いながらも負の相関傾向があった。
相違点: ASA と

刺激迫及性と
の相関は女性
グループの方

が全般的に高い傾向が見られ、特に飲酒と大麻使用の習慣において顕著であった。

考 察

動機システム活性化の指標である ASA と DSA の分布傾向や刺激迫及性・リスク行動との関連性において、全般的に大きな性差は見られなかった。例えば男女とも DSA 分布の歪度は負の傾向を示した事は、回避システムが接近システムよりも人類の生存に大きく関わる事を示唆している。さらにこの研究結果から、1) ASA のリスク行動への影響は女性の方が高く、2) 女性の場合は接近・回避システム活性化が共に高いグループ (Coactives) のリスク行動が最も高い事がわかった。男女間における僅かな相違が、ある条件・環境下において行動に重要な影響をもらす (Darwin, 1871) とすれば、それはリスク行動と動機システム特性における性差にも表れている可能性がある。

引用文献

- Darwin, C. (1871). *The descent of man and selection in relation to sex*. London: Murray.
- Lang, A., Kurita, S., Rubenking, B., & Potter, R.F. (2011). miniMAM: Validating a short version of the Motivation Activation Measure. *Communication Methods and Measures*, 5(2), 146 -162.
- Lang, P.J., Bradley, M.M., & Cuthbert, B.N. (1997). *International Affective Picture System (IAPS): Technical manual and affective ratings*. Center for the Study of Emotion and Attention.
- Stephenson, Hoyle, Palmgreen, & Slater (2003). Brief measures of sensation seeking for screening and large-scale surveys. *Drug and Alcohol Dependence*, 72, 279-286.

		ASA (接近動機)	DSA (回避動機)
刺激迫及性	男性	.11	-.114
	女性	.272**	.15*
Substance use (総合計)	男性	.101	.027
	女性	.345**	-.02
飲酒	男性	.127*	-.051
	女性	.349**	-.034
喫煙	男性	-.015	-.023
	女性	.169**	-.005
大麻 (マリファナ)	男性	.065	.051
	女性	.316**	.021

Table 2. 接近・回避動機システム活性化の特性と刺激迫及性・リスク行動の相関